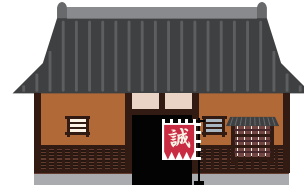




新撰組屯所
八木邸

新撰組屯所
旧前川邸



司が近所の子どもたちを集めて、遊んでいる描写も見られる。拙者も本堂に腰掛けて、当時の様子を思い描いてみた。都の治安を守るために人斬りをする一方で、子どもたちと遊んだというその心の内は、拙者如きでは計り知れないと思知らされただけでござった。

壬生寺から北へ上がりすぐのところ、坊城通りに面して和菓子屋あり。その奥に位置するのが新撰組の拠点、壬生の屯所である八木邸でござる。新撰組はこの八木邸のほか、前川邸と今は現存していないが南部邸に分宿していただでござる。

八木邸に近付くと、公開中の場合は「ご見学ですか？」とまれなく聞かれるので、見学するか否かの返答をされたし。否と答えた場合は、仕切りの中には一切入れないので覚悟めされよ。見学すると答えた場合、抹茶と屯所餅付きで大人も中高生も千百円。中高生の場合、見学のみだと六百円でござる。八木邸内ではしっかりとガイドがつくとはいえ、お抹茶とお菓子の接待は門前の和菓子屋内での振る舞いであり、洛中洛外



にある有名寺院の、庭園を見ながら頂く抹茶付き拝観料と比べると……ウムムム……でござる。また邸内では撮影禁止。唯一、八木邸門前でのみ可能であることも心得られよ。見学者には、係員が門前で写真を撮ってくれるサービスもあるでござる。

前川邸は、和菓子屋の斜め向かいに位置する古い邸宅。今は田野製麺所となっており、個人宅ゆえに公開はされておらぬでござる。土日祝のみ、隊士たちが出入りしたと言われる玄関にて、関連グッズの販売がなされているでござるよ。

この前川邸、池田屋事件の発端となる古高俊太郎の拷問が行われた蔵が現存しており、さらに芹沢派の一人だった野口健司、新撰組総長として隊の中心人物だった山南敬助が切腹した座敷がそれぞれ現存するでござるが、これらは前川邸の公式サイトで画像をみる事ができるでござる。山南敬助の切腹の間は、毎年春に催される山南忌の参加者にのみ公開されるとのこと。開催日は毎年違うので、公式サイトで確認をお願いするでござる。ちなみに二〇二二年は三月十三日(日)でござるよ。

